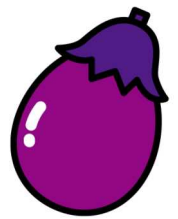


ナスビの学校



4月7日(火)に行われた始業式では、校長先生をはじめ、各学年の代表が、新しい学校生活への学びに向けて、全校生徒へメッセージを届けました。

一日二日の過ごし方が大切

川口浩倫校長先生は、新型コロナウイルス感染症が広がっていることをふまえながら、「一日二日の過ごし方がとても大切になってくる」と、これからの生活のしかたについて話をしました。

そのなかで、川口校長先生は生徒たちに3つの問いを投げかけました。

「人は逆境や強い相手、難しい課題に立ち向かっていくことで成長できる。でも、どうして私たちはなかなか立ち向かうことが出来ないのだろうか？立ち向かい、自分を成長させていくためにはどうすればよいのだろうか？」

「私たちは、やる気を出すことで良い結果をたぐりよせていくことができることをよく知っている。でも、どうして私たちはなかなか

やる気を出すことが出来ないのだろうか？どうすればやる気を出し、良い結果を出していくことができるのだろうか？」

「私たちはみんな『ありがとう』を聴きたい。それはみんな分かっているはずなのに、私たちはどうして自分から『ありがとう』をいうことが難しいのだろうか？自分から『ありがとう』を言うためには、どうすればよいのだろうか？」

川口校長先生が投げかけた3つの問いです。私たちはこれらの問いに、今、どのように答えることができるでしょうか。そしてこれから、これらの問いにどのように向き合っていくことができるでしょうか。

宮崎大学教育学部附属中学校には、設立以来、ずっと大切にしている「我等の

目標」があります。この「我等の目標」のなかには「自発的に学び、真理を探究しよう」という目標が掲げられています。

川口校長先生がみんなに投げかけた3つの問いは、いずれもたくさんの答えがありうる問いであり、なおかつ、自分なりの答えを見つけ、磨き続けていくことが求められている問いです。さあ、真理の探究を始めましょう。来年の3月、新しいステージに進もうとするとき、あなたはこれらの3つの問いに、どのように答えることができるでしょうか。

見通す力を！

新2年生代表の生徒は、「目的の実現」「先輩としての信頼」そして「集団の力の向上」というメッセージを送りました。

昨年度の反省として、さまざまな活動に「遅れが生じていたことを挙げ、見通しをもって計画を立てることの大切さを実感したといえます。この反省を生かして、今年度は「目的の実現のために小さな目標を立て、フィードバックをしながら取り組んでいくこと」を掲げました。そのような姿を見せていくことが、先

輩としての信頼をつくりあげていくことにも、さらには学年集団の力を高めていくことにもつながっていくます。

附属中にはファミリー活動があります。ファミリー活動の中核は2年生です。3年生に学び、1年生に姿を見せる。新2年生の活躍に期待が高まりました。

リーダーシップ！

新3年生代表の生徒は、「自分の強みの自覚がリーダーシップの向上につながっていくこと」そして「自分のこと、学級のことだけでなく、学校全体のことを考える視野をもつことの大切さ」を伝えました。

昨年度、勇気をもって学級委員長に立候補し、務めた経験語るなかで、明るさと大きな声を出せるという「自分の強み」を自覚できたことで、リーダーシップが高まり、自分に自信をもつとともに、学校生活の充実を実感したといいます。そして学校全体のことを考えることができるようになったのです。

「自分は何ができるのか」「自分の強みは何なのか」を考えることから、リーダーシップの向上が実現していきます。リーダーシップと親和的な強みは、決して「人前に出ることが得意」などに限られるものではありません。「人の話をしっかりと聴くことができる」という強みも、リーダーシップにつながっていくものになるでしょう。

代表生徒は、最後にこう言いました。「ゴールは卒業式だ。」新型コロナウイルスの影響で先が見えない日々が続きますが、3年生のリーダーシップのもと、学校全体で一つ一つのことをがんばっていききたい、そう思えるメッセージでした。

合言葉の威力！

「できる、できる、ぜっ

たいにできる。」これはE級みんなの合言葉です。E級のみんなが何度も口にする合言葉であり、いつでも心の中にある合言葉です。

E級代表の生徒は、この合言葉の力を実感したといいます。そして、この言葉を実現するための努力を続けたい。そう力強く語ってくれました。

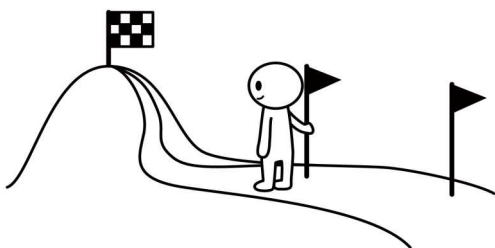
そのためにがんばりたいことは「考えたこと、思ったことを文章にすること」です。自分の考えを見える化することができれば、相手とのコミュニケーションも生まれできます。

そして、交流活動を通して、たくさん仲間を増やし、仲良くなっていきたくないと抱負を語りました。

「できる、できる、ぜったいにできる」という合言葉は、E級だけでなく、私たちみんなを勇気づけ、奮い立たせてくれるものでもあります。

これから先、いろいろな困難があったとしても、みんなで「できる、できる、ぜったいにできる」という合言葉を口ずさみながら、一緒に乗り越えていきたい。そう思わせてくれました。

3名の代表生徒のみならず、本当にありがとうございました。



MIYAFU LEARNING MODEL



students

teachers

学びをつくる

授業時数の減少
分散登校の実施
感染予防の徹底

そんな今だからこそ、新たな学びをともにつくろう

MIYAFU LEARNING MODEL

学習は仲間や先生とともにつくるものであるという考え方をもち臨もう！

“うける”から
“つくる”へ

学習は学び（＝自分の成長）のためにあるという考え方をもち臨もう！

“こなす”から
“まなぶ”へ

学習は生活をより豊かに楽しくするためにあるという考え方をもち臨もう！

“とじる”から
“ひらく”へ

学びや知能に対する前向きな考え（成長マインドセット）がもてる学習

学びへの
向かいかた

各教科の特徴をいかした、ものごとに対する考え方を身に付けられる学習

ものごとの
考えかた

学んだことや身に付けた力を生活のなかで役立てる方法まで学べる学習

学んだことの
役立てかた

私たちの約束（students）

- 学習に必要なものを確実に準備してきます。
- 2分前着席・1分前黙想をして、学習の構えをつくりまします。
- 学習の見通しをもちまします。
- 先生が説明しているときには静かに聞きます。
- 仲間が発表しているときには静かに聞きます。
- 自分の学習への取組が仲間に影響を与えることを自覚しまします。
- 学習のために必要な予習に自分から取組みまします。
- 理解を深めるための復習に自分から取組みまします。

私たちの約束（teachers）

- 聞き取りやすい説明をしまします。
- 見やすい板書やプレゼンテーションをしまします。
- 教科書の使い方を学べるようにしまします。
- 課題に取り組む時間にゆとりをもたせまします。
- 生涯にわたって役立つ学び方を学べるようにしまします。
- 学習の見通しを伝えます。
- 評価する方法をあらかじめ伝えます。
- 教科を学ぶ意義、教科と生活の結びつきを伝えます。